

〈プレスリリース〉

2015年9月

進路情報研究センター調査レポート Vol.10



高校生の進学意識調査結果

進路に悩んだときは、まず「母親」に相談。

スマホ・ケータイの利用時間は、平日1時間、休日2時間。

進路情報研究センターは、株式会社ライセンスアカデミー（本社：東京都新宿区）のシンクタンクとして、進学・就職等教育に関わる最新情報を発信しています。

この度、3千人近くの高校生を対象に、進学に関わる意識調査を行いました。「大学を選ぶ際に重視するポイント」「進路の相談相手」「勉強時間、スマートフォン利用時間」などを明らかにしています。

●調査対象・方法

ライセンスアカデミーでは、2015年の3月から7月に「大学入試入学説明会」を全国で開催した。

そのうち33会場において、参加した高校生を対象に意識調査を実施。調査は質問紙によるもので、会場で配布しその場で回収した。

なお、本調査は2014年から実施している。前年も同時期に質問紙を配布・回収し、それに基づき報告書を作成している。

●回答者属性

・回答数 2941件

(以下、属性判明分だけを列記)

・学年 1年生63人、2年生691人、3年生1730人、4年生4人

・設置者別学校種 公立930人、私立1478人、国立35人

・高校タイプ 共学校2170人、女子校275人、男子校55人

・志望系統 文系1187人、理系700人、その他297人、未定234人

「複数回答可」の設問集計について

「複数回答可」で尋ねた設問は、「選択肢」ごとに集計をした。報告書中にある割合（パーセント）は、「選択肢を回答した数」を「該当母集団の数」で除した数値になっている。

例：ある選択肢について、全回答者 2941 人のうち 1400 人が回答した場合は「 $1400 \div 2941 \approx 0.476$ 」で 48%。同様に、3 年 1730 人のうち 80 人が回答した場合は「 $80 \div 1730 \approx 0.046$ 」で 5%と算出される。

調査結果のポイント

●相談される内容は、「学部・学科の特色」と「入試方式」が中心

「留学制度」への関心は順位が低いものの、5 ポイント増の 10%で前年調査の倍の数値を示した。

●大学を選ぶポイントは、「学びの内容」「就職率の高さ」

上記のほか、「取得資格・免許」「大学の様子・雰囲気」も重視されている。一方で、「サークル」「歴史・伝統」については、大学選びのポイントにはなりにくいようだ。

●進路に悩んだときは、まず「母親」、次ぎに「担任の先生」

3 年生になると、他の相談者の割合が増える。また、「SNS で知り合った人」に尋ねるケースは少ない。

●「オープンキャンパス」と「大学のパンフレット」が、大学選びの情報源

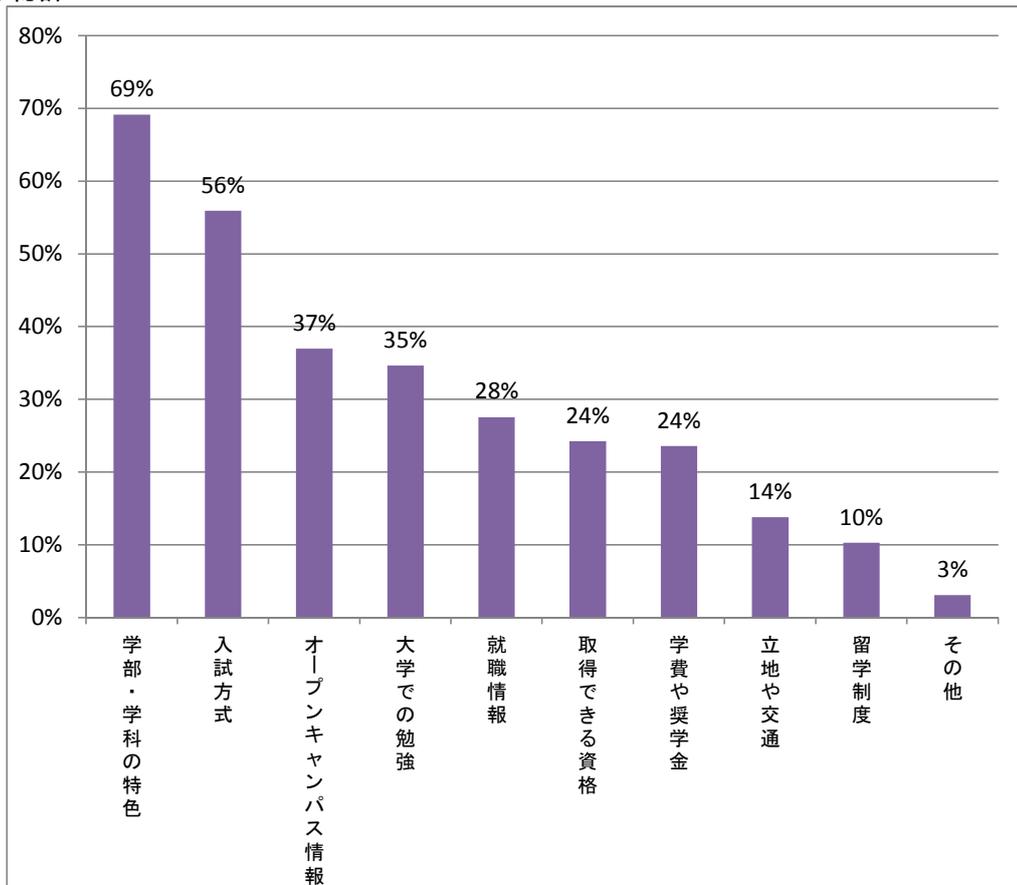
3 位「大学の Web サイト」への注目も高まった。全回答者の 35%が情報源として挙げ、前年よりも 18 ポイント高い数値になった。

●3 年生、休日のスマートフォン・ケータイの利用時間は、2 時間台が最多

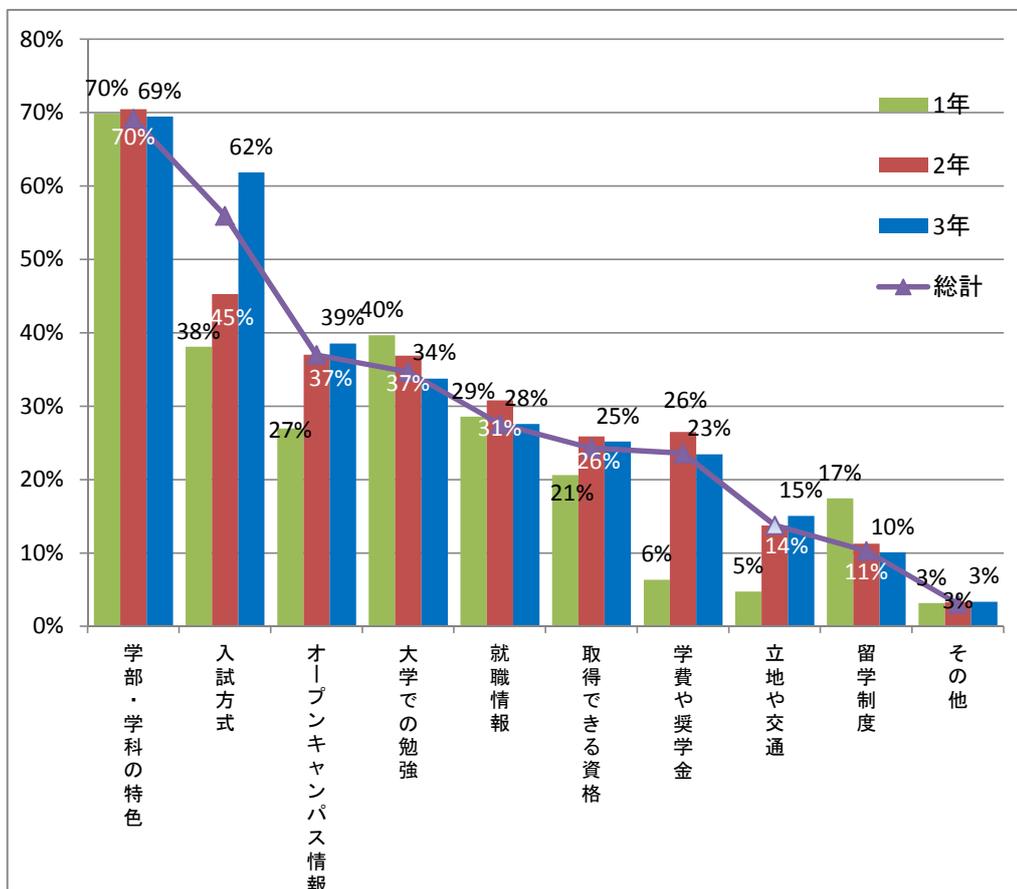
6 時間以上のヘビーユーザーが 11%存在。なお、勉強時間も 2 時間台が最多で、勉強時間ゼロが 8%存在している。

Q 本説明会では、どのようなことを相談したか？（複数回答可）

● 総計



● 学年別集計



7割近くが「学部・学科の特色」を、半数以上が「入試方式」について尋ねている。そこから約20ポイントの差が開き、「オープンキャンパス情報」「大学での勉強」が続く。後者はカリキュラムや単位といった「大学ならではの学び方」が含まれると推測できる。「その他」には自由回答欄を設けたが、「クラブ活動」「アパート情報」「小論文対策」などの記入が見受けられた。

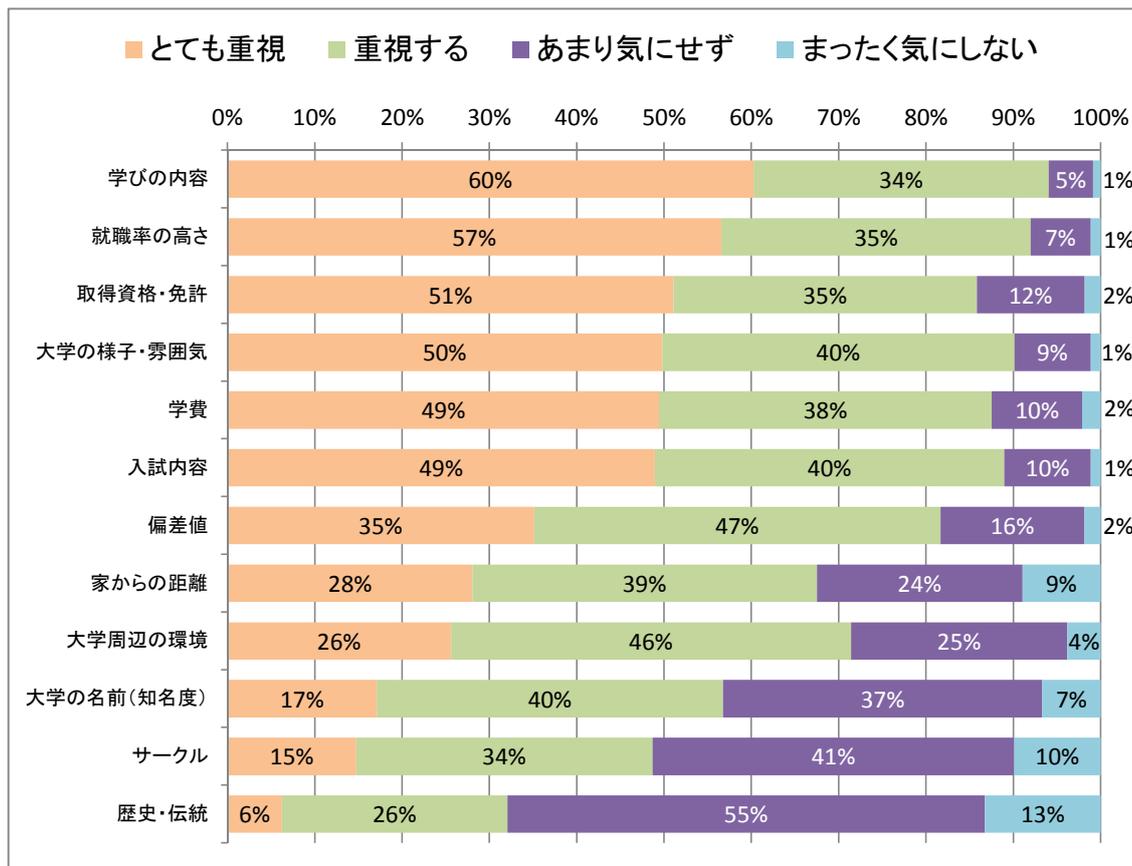
本調査は前年にも実施している。その結果と比較すると、「就職情報」が8ポイント、「留学制度」が5ポイントとそれぞれ上昇している。後者は、いわゆるグローバル化への関心の高まりだと考えられる。その一方で、「大学での勉強」は6ポイント下降した。

続いて、学年別に再集計した結果を取り上げる。なお、「総計（全体での集計）」との比較を容易にするため、「総計」は紫色の折れ線で示した（以下同様）。

「1年」は、全体的に他学年よりも低い数値になっている。逆に、「3年」は全体的に数値が高く、つまり高い相談意欲が伺える。とりわけ「入試方式」では「2年」より17ポイント高い。「2年」は1、3年の中間的な傾向を示すが、「学費や奨学金」への関心は高い。学年ごとに求められる情報が大きく異なることが分かる。

Q 大学・短大を選ぶ際、次の項目についてどの程度重視するか？（無回答は集計せず）

● 総計



「就職率の高さ」「学びの内容」が、非常に重視されていることが分かる。「とても重視」50%程度という指標に注目すれば、5位「学費」「入試内容」までが学校選びのポイントになっていると考えられる。「偏差値」は、上位6項目ほどは重視されていない。

「歴史・伝統」は、「とても重視」「重視」合算でも32%で、受験校選びの指針にはなりにくいようだ。「サークル」についても同じ傾向にある。

前年の結果と大きく傾向は変わらないが、「とても重視」では、「学びの内容」「取得資格・免許」が3～4ポイントアップ。また、前年は「在学生の様子・雰囲気」として、本年は「大学の様子・雰囲気」として質問した項目は、8ポイントアップした。

Q 志望校の決定時期、決定予定時期は？(無回答は集計せず)

○決定者の決定時期 ※学年、時期ともに回答した953人分を表集計

		回答者の学年		
		1年	2年	3年
決定時期	1年(時期不明)			2
	1年1学期	5	27	37
	1年2学期		31	41
	1年3学期	1	37	23
	1年後期		2	
	1年前期			1
	2年(時期不明)			4
	2年1学期		25	74
	2年2学期			176
	2年3学期			242
	2年後期			6
	2年前期		1	4
	3年(時期不明)			2
	3年1学期			212
	学年計		6	123

○未決定者の決定予定時期

※学年、時期ともに回答した1283人分を表集計

		回答者の学年		
		1年	2年	3年
決定時期	1年(時期不明)			
	1年1学期	1		
	1年2学期			
	1年3学期	4		
	2年(時期不明)		5	
	2年1学期	7	14	
	2年2学期	11	132	
	2年3学期	14	216	
	2年後期		9	
	2年前期		2	
	3年(時期不明)		2	11
	3年1学期	7	91	446
	3年2学期	2	17	256
	3年3学期	1	2	8
	3年後期			2
3年前期		4	19	
学年計		47	494	742

決定者は953人。未決定者は1283人であった。本相談会参加者の多くは、「決めよう」という意思を持って来場したと考えられる。参加者の多い、3年に限ると、決定824人、未決定742人で、未決定の割合は小さくない。

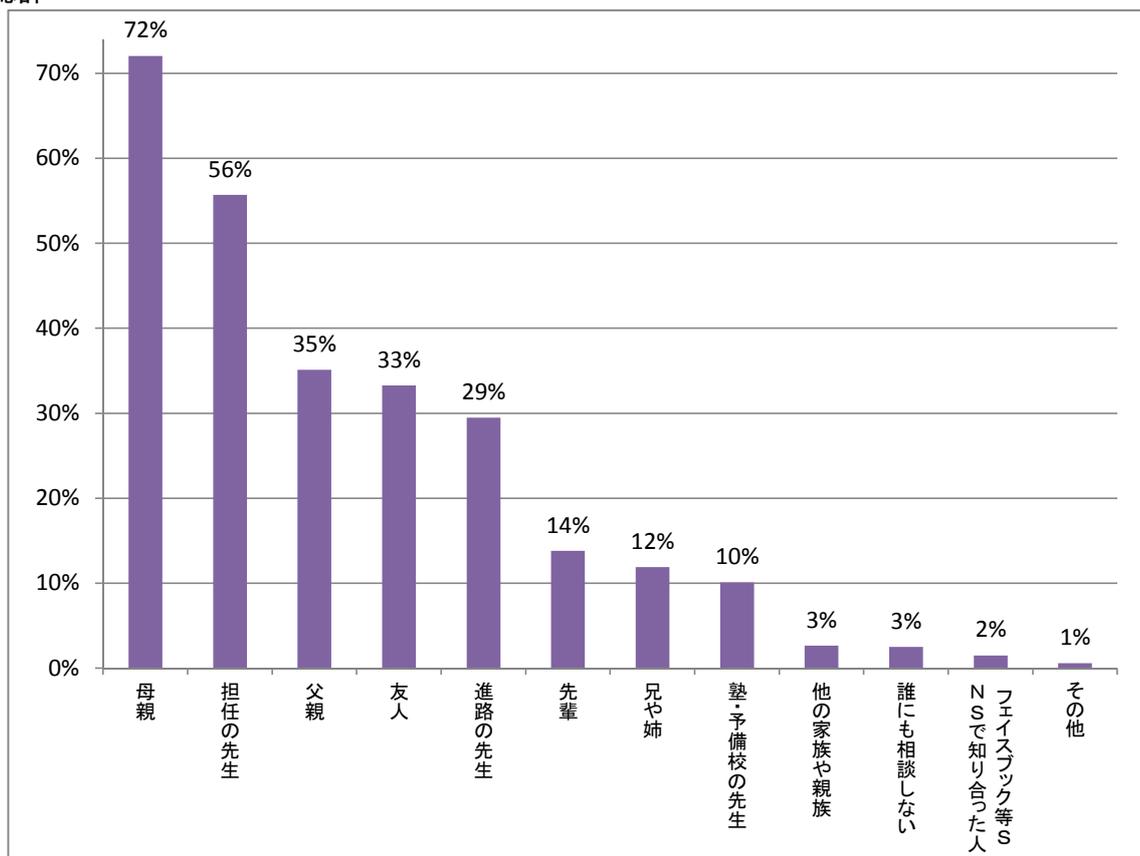
学年ごとに、「決定した時期」および「決定予定の時期」の両判明者のみを集約したのが本表である。

「決定者の決定時期」について、3年の場合、多くが前の学年の秋か冬に決定している。しかし、3年生において、同学年の1学期までずれ込んでいる生徒も824人中212人(26%)存在する。

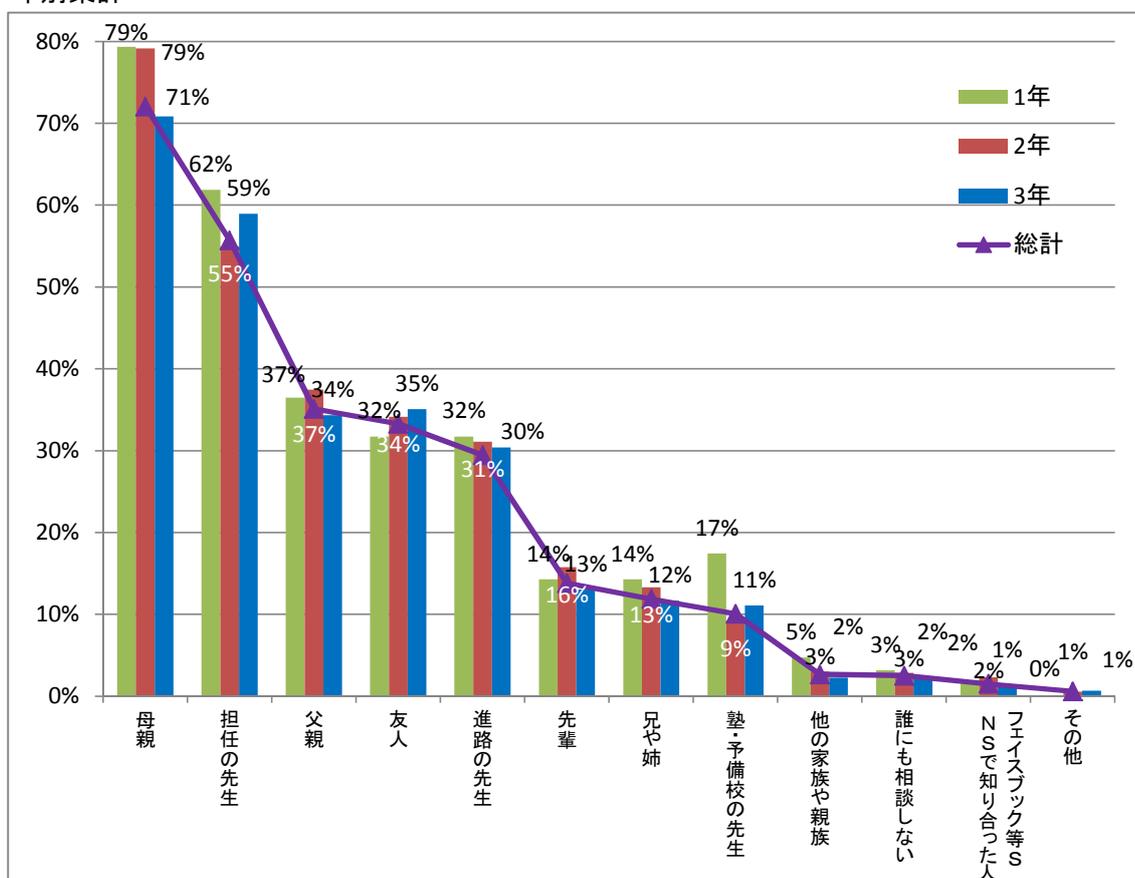
「未決定者の決定予定時期」の表からは、2年生がその学年の間に決めようとする傾向が伺える。また、3年生は1学期中に決めようとする生徒が742人中の3分の2を占め、本相談会はその一助になっている。ただ、3分の1は夏休み後に持ちこすことが分かる。夏休み中のオープンキャンパスを参考にしたいと考えているようだ。

Q 進路に悩んだ時は誰に相談するか／相談したか？（複数回答可）

● 総計



● 学年別集計



72%が「母親」を、56%が「担任の先生」を挙げた。次に約20ポイントの差を付けて、30%台で「父親」「友人」「進路の先生」が並ぶ。スマートフォンなど情報機器の普及は著しいが、「フェイスブック等SNSで知り合った人」に尋ねるケースは少ないことが分かる。

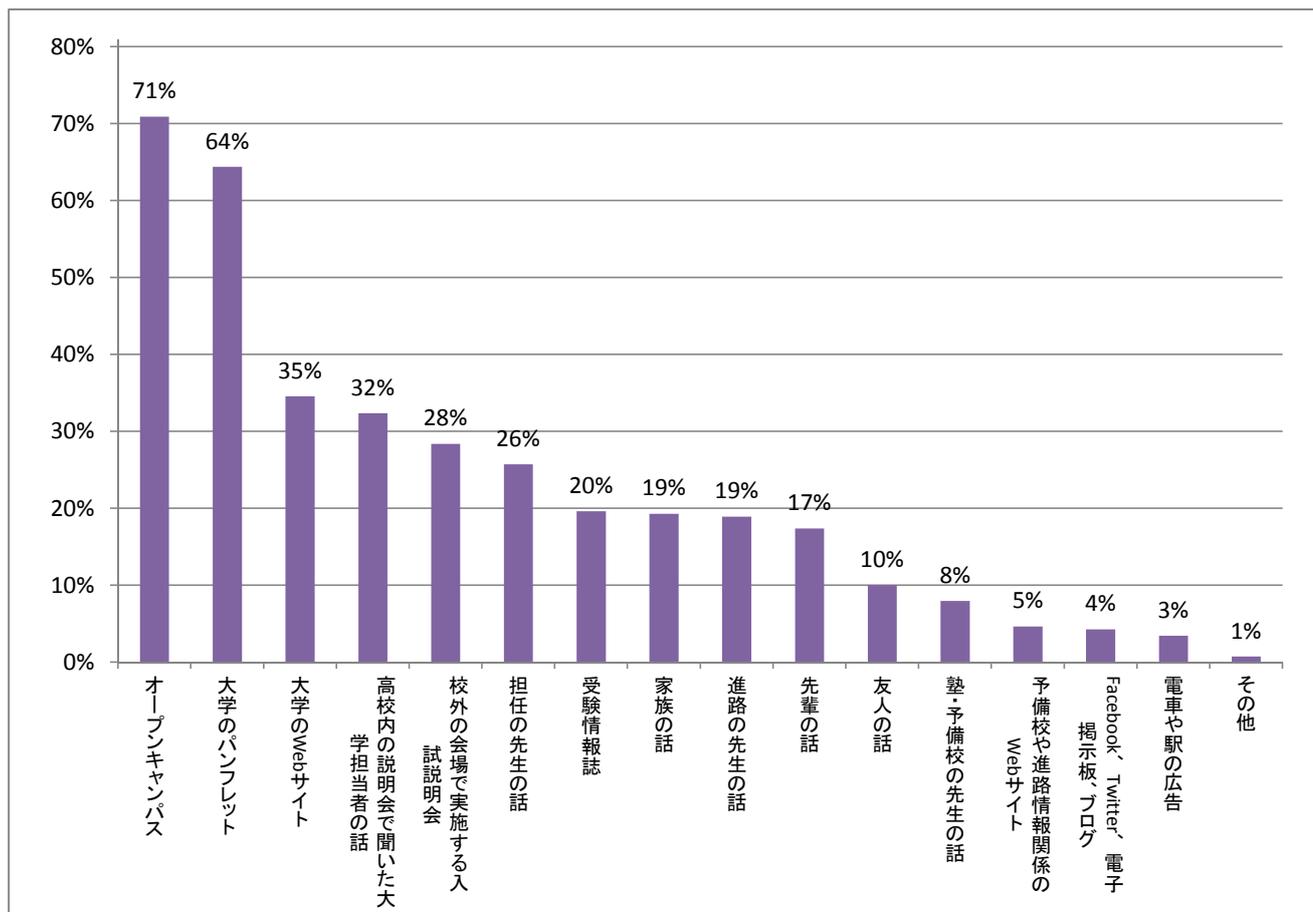
前年結果と比べると、各選択肢とも2～8でポイントも数値が上昇している。相談する相手が増えたと推察できる。ただし、「進路の先生」だけは2ポイント下降している。また、「父親」と「友人」の順位が逆転した。

「他の家族や親族」には「祖父母」が、「その他」には「部活の先生」などが挙げられている。

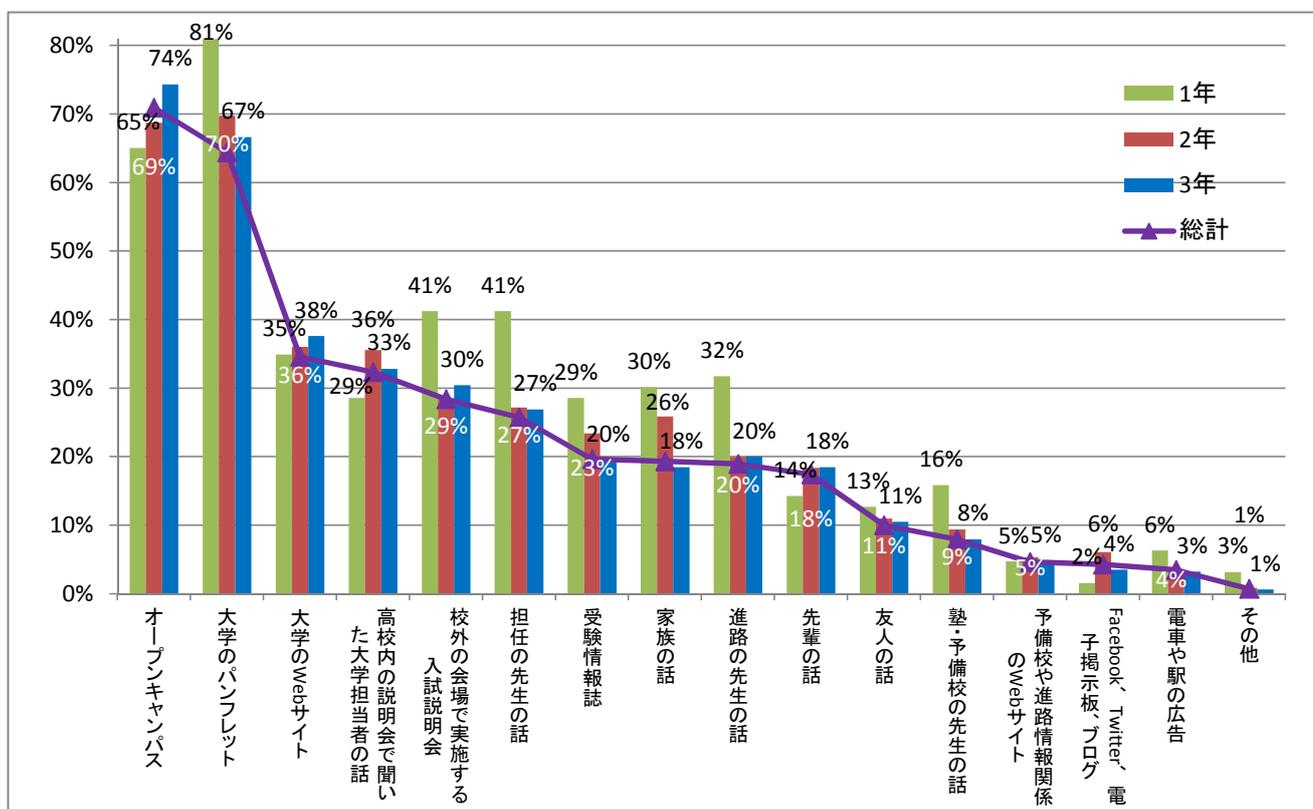
「学年別」を見ると、「1年」が他の学年よりも全体的に数値が高い。相談相手がより多岐にわたっていると推察できる。

Q 大学・短大はどのような情報源から選ぶか？（複数回答可）

● 総計



● 学年別集計



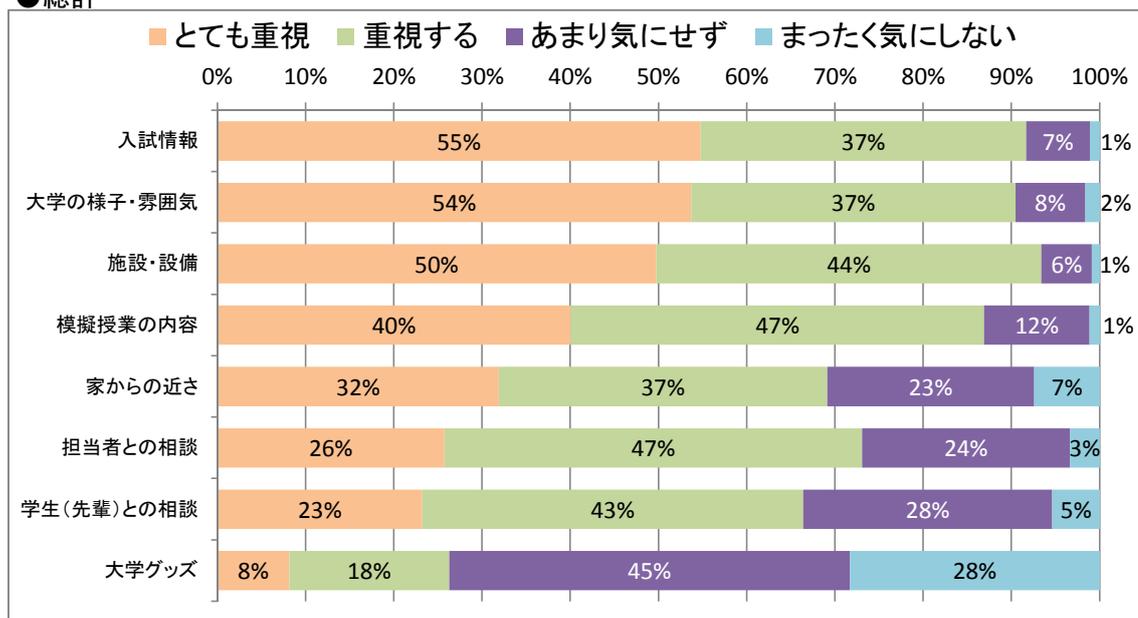
「オープンキャンパス」と「大学のパンフレット」が、他を大きく引き離している。4、5位には、「ガイダンス」と総称される「高校で聞いた大学担当者からの説明」および「校外の会場で実施する入試説明会」が位置する。担当者からの「生の声」は受験生に説得力を持って届いていると考えられる。

「大学のWebサイト」は、前年結果よりも18ポイントもアップした。紙のパンフレットを廃止し、Webに全面移行する大学もある中で、今後の推移が注目される。また、「担任の先生の話」「受験情報誌」「先輩の話」も、8～11ポイントの間でアップしている。

「1年」は他の学年よりも数値が高く、つまり、選ぶ情報源の種類が多い。情報収集意欲の高さが伺える。「校外の会場で実施する入試説明会」「担任の先生の話」は2、3年と比べて10ポイントも高く、1年生が信用している情報源になっていることが分かる。

Q オープンキャンパスに行った際、次の項目についてどの程度重視するか？
 (無回答は集計せず)

● 総計



「入試情報」「大学の様子・雰囲気」「施設・設備」が、重視ポイントの「ベスト3」と言えよう。

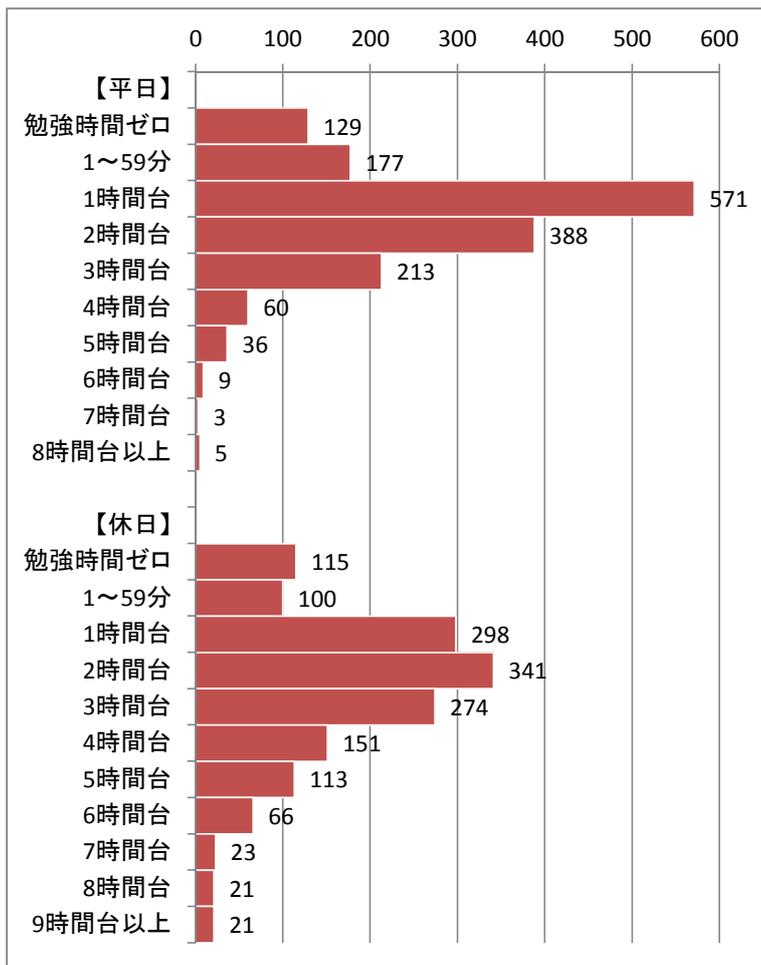
2位の「大学の様子・雰囲気」だが、オープンキャンパスは「雰囲気」が味わえる数少ない機会になっている。同様に、3位の「施設・設備」についても、パンフレットやWebサイトでは理解しづらいため、現地で実見したい希望が強いと考えられる。

一方で、「担当者との相談」「学生との相談」の比重は、それほど高くない。関係者と話せる貴重な機会であるだけに、残念な結果と言えよう。

なお、本設問は前年とほぼ同じ結果を示した。

**Q 1日の自宅学習時間は？
(3年生のみ集計、無回答は除外)**

● 総計【平日】全1591人 【休日】全1523人



平日は「1時間台」が最多で、571人（全1591人中36%）。休日はそれより1時間増の「2時間台」が多く、341人（全1523人中22%）。

気になるのは、「勉強時間ゼロ」の存在で、平日は129人、休日は115人に達する。割合だといずれも8%となる。

勉強時間の最長は、平日12時間、休日18時間だった。

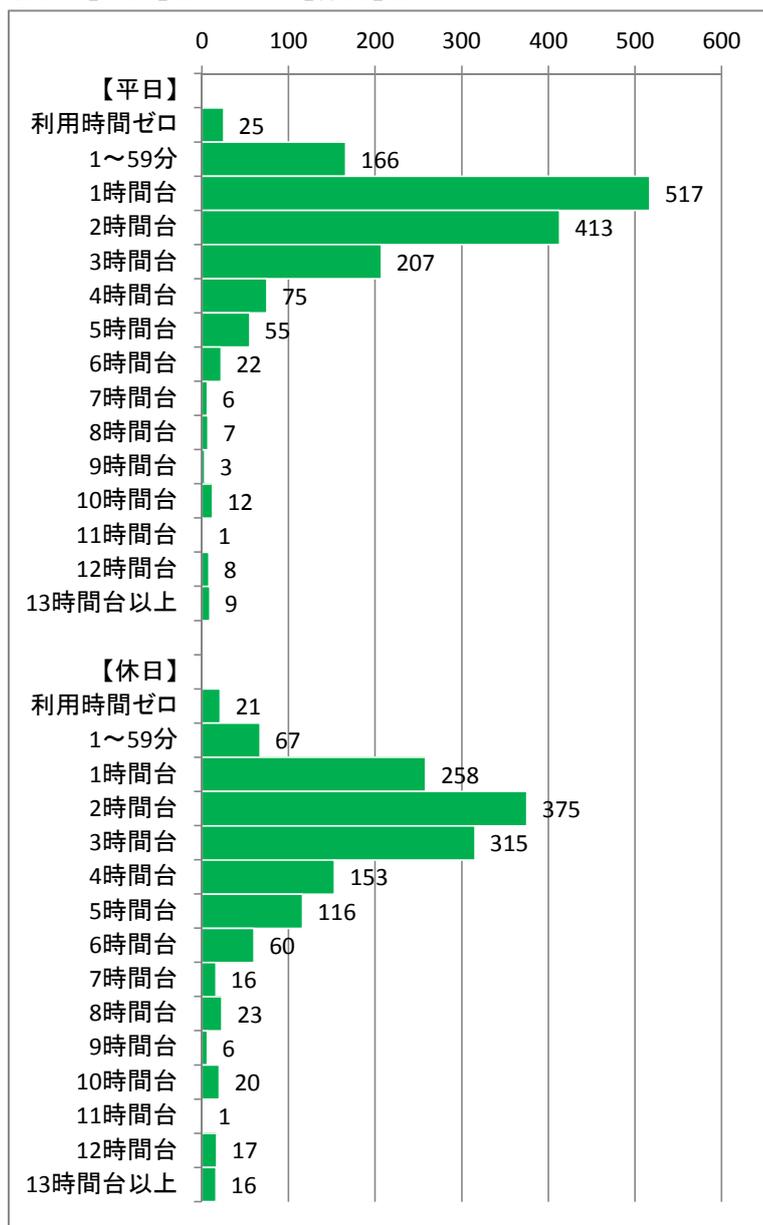
難関大（有名大）を志望する生徒ならば、3～4時間の自宅学習時間は必要であろう。

なお、2年生においても同様の集計を行っている。平日は「1時間台」が最多で40%、休日は「2時間台」が最多で25%。「勉強時間ゼロ」については、平日、休日ともに8%。

以上のように、3年生と非常に類似した傾向を示している。学年間に違いが見いだせなかったのは、予想外だった。

Q 1日のスマートフォン、ケータイの利用時間は？
(3年生のみ集計、無回答は除外)

● 総計 【平日】全1526人 【休日】全1464人



最も多いのは、平日は「1時間台」で517人（全1526人中34%）、休日は「2時間台」で375人（全1464人中26%）。平日、休日とも、勉強時間と同じところにピークが表れている。

また、「6時間」以上使用のヘビーユーザーが存在し、平日68人・4%、休日159人・11%となっている。

2年生についても同様の集計を行っているが、3年生と非常に類似した傾向を示し、こちらも学年間に明確な違いはなかった。